

校内研修 研究授業記録簿

期 日	平成27年 9月 9日 (水) 5校時 (14:00~16:40)
記録者	渡辺 晶子
欠席者	なし
研究 授 業	<input type="checkbox"/> 授業者・・・平良 ひろえ 教諭 <input type="checkbox"/> 指 導・・・大浜 公三枝 指導主事 (八重山教育事務所) <input type="checkbox"/> 場 所・・・小5・6年教室 <input type="checkbox"/> 教科・領域・・・道徳 <input type="checkbox"/> 主題名・・・「より高い目標を目指して」1-(2) 希望・勇気・努力 <input type="checkbox"/> 資料名・・・「もう一度エベレストへ 三浦雄一郎」出典 (文溪堂 5年生道徳)
<p>1 授業者の反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても緊張していて、大事な中心発問を忘れてしまったが、自分なりに修正できたと思う。 ・子ども達の発言を上手くつなぎきれなかった。 ・時間もオーバーするなど、反省点が多い・・・ご指導よろしくお願いします。 <p>2 ワークショップ (*グループについては別紙参照)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県から出されている「授業における基本事項」をもとに、「学習規律」「めあて・ふりかえり」などの言葉を使ってまとめることができた。 <p>3 指導助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料3部・・・「富野小中学校 道徳検証授業・校内研修資料」 「道徳の授業づくり」 「道徳の教科化にむけて」 ・質問の回答①…めあては提示するもの、しないものある。必ずという決まりはない。 ・ " ②…説明 (よみとり) は授業者の意図すること…。国語ではないので、説明が必要などころだけがよい。 ・ " ③…子どものつぶやきや意見は、教師が子どもと確認しながらキーワードを押さえ、要約するのはOK ・ " ④…資料の取扱について、資料はこれから「教材」と呼ぶ。子どものバックグラウンドは色々あるが、今日はこの資料で同じ土俵にのせる役割がある。 ・今日の授業やこれからの授業もそうだが、富野校の校内研究計画にある「<u>仮説の検証</u>」になっていたかどうか大切。今一度確認を。 ・立腰は昨年度見た時より、子どもたちにすっかり定着していた。 ・ひろえ先生の発問の修正がよかった→子どもの反応を見ながら行っていた。 ・板書が構造的であった。時系列で記載され、矢印を使い、前に出た意見をつなげていた。 ・授業マネジメントの観点から、時間オーバーなので、どこを切るか今一度検討する必要あり。 ・大切なこと→「<u>少人数の良さを何としてしているか?</u>」これを強みにしてほしい! ・<u>資料分析をしないと、中心発問は考えられない!</u> 	